

令和6年度 シラバス 【美術Ⅰ】

1 1 新潟県立新潟翠江高等学校（通信制課程）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
選択必修	2	6	8	0
教科書			学習書・その他教材	
美術1（光村図書）			美術資料～新潟の美術（秀学社）	

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①生涯にわたって自ら意欲的に学び続け、目標に向かって努力する態度を育成します。 ②互いの人権や考えを尊重し、命を大切にする心と行動力を育成します。 ③社会的・職業的自立に必要な勤労観や職業観を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う～ ①多様な生徒の学習歴や興味・関心に合わせた科目選択ができる教育課程を編成します。 ②思考力・判断力・表現力の獲得を目指した、学びを充実させる丁寧な面接指導(スクーリング)を行います。 ③生徒が自学自習しやすい報告課題(レポート)を作成し、生徒の学びを深める丁寧な添削指導を行います。 ④放送視聴や平日校外スクーリングなど、通信制の特徴を活かした多様な学び方を促します。 ⑤コミュニケーション能力の伸長を図るため、生徒交流会や運動会、体験学習等の特別活動を行います。

学習目標

- 美術の幅広い創造活動を通して生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
- 造形的な視点について理解を深め意図に応じた表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようになる。

学習内容

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 1. 身近なものを描く、鉛筆で描く（鉛筆デッサン） | レポート1 |
| 2. 墨で描く、絵巻物を楽しむ（水墨画） | レポート2 |
| 3. テーマを決めて撮影する、写真史（写真） | レポート3 |
| 4. 色の特徴を知ろう、パッケージデザイン（色彩とデザイン） | レポート4 |
| 5. 自己をあらわす（水彩による自画像） | レポート5 |
| 6. 美術史と作品鑑賞（鑑賞レポート） | レポート6 |

学習方法

【スクーリング】

- ・レポート・教科書・美術資料（副読本）、筆記用具を持参してください。
- ・内容は課題の解説、制作の手順、鑑賞、実習（全てのスクーリングでできるわけではありません）を行います。
- ※ 実習は制作のヒントや技法を体験する実技が中心です（実技課題の内容・制作手順が分かり易くなります）。

【レポート作成】

- ①記述課題・・・問題文をよく読み字数不足、未記入、無回答のない解答をしてください(未記入、無回答は不合格)。
- ②実技課題・・・課題文、作品の条件をよく読み、課題ごとに異なる表現技法を理解し、作品のテーマやねらいを考えて制作してください(課題内容、条件を満たしていない作品は不合格)。

- ※ 提出する作品は自分で考え、制作すること。アニメや漫画の模倣やネットのフリー画像を自分の作品として提出することはできません（著作権侵害、盗作の作品は不合格）。

【放送視聴】

- ・指定の番組一回分をすべて視聴し「放送視聴報告用紙」に番組全体について空欄なくまとめ、感想を書き、レポートに添付して提出する。添付のレポートが合格し視聴時間、報告内容が十分の場合は出席時数となります。
- 巻末の「放送視聴について」をよく読んで取り組みましょう（条件を満たさない場合は時数になりません）。

評価の観点の趣旨		
以下の観点を踏まえ、レポートを評価します。字数不足、未記入、無回答があった場合や課題枚数不足、実技作品が課題内容・条件に合わない場合は不合格となります。また、著作権侵害、盗作の作品も不合格となります。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技術を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

評価方法		
各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ ・レポートの内容の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・レポートの内容の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・レポートの内容の分析などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

担当者からの一言
美術では絵画・彫刻、デザイン、映像メディア、鑑賞など様々な学習を通じて美術の経験を広げ、美術を楽しむ心を育てます。得意、不得意にかかわらず、制作意図や表現を工夫し、時間をかけて作品作りに取り組んでください。また、制作等で分からないことは気軽に質問してください。